様式１

令和８年度　指定管理施設運営状況中間評価表

１．施設の概要

施設の名称	脇野沢瀬野牧野、脇野沢滝山牧野、脇野沢源藤城牧野 むつ市営瀬野畜舎、むつ市営滝山畜舎、むつ市営源藤城畜舎	
指定管理者	団体名	一般社団法人　むつ市脇野沢農業振興公社
	代表者	理事長　柳谷　真吾
	所在地	むつ市脇野沢七引２０１番地５
指定期間	令和　８年　４月　１日　～　令和１０年　３月３１日　（　２　年間）	
指定管理業務の概要	⑴　牧場施設、家畜管理施設の維持及び修繕 ⑵　施設の使用許可 ⑶　牧場施設、家畜管理施設の利用料金の収受	

２．収支の状況　※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。
※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。
※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。　（単位：千円）

区　分	年間計画額 ①	上半期実績額 ②	増　減　(②－①)
収入合計（A）	２，６４０	１，８８７	△７５３
うち利用料金額	３６０	１７７	△１８３
うち指定管理料	２，２８０	１，７１０	△５７０
支出合計（B）	２，６４０	７９９	△１，８４１
うち人件費	０	０	０
収支差　（A－B）	０	１，０８８	１，０８８
市への納入金	０	０	０
計画額と比較した実績額の増減理由	※上半期終了時は記載不要		

３．施設利用の状況　（単位：戸、頭、房）

	区　分	年間計画　①	上半期実績　②	増　減　(②－①)
利用者数	牧野利用戸数	０戸	０戸	０戸
	放牧頭数	０戸	０戸	０戸
	牛舎利用戸数	２戸	２戸	２戸
	牛舎利用頭数	１４，５００頭	６，５２６頭	△７，９７４頭
	畜舎利用房数	０房	０房	０房
利用者の声とその対応状況　※利用者アンケートの実施（有・無）				

４．自主事業の実施状況　（単位：人、千円）

事　業　名	利用者数	収　入	支　出

５．個別項目評価　※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準　A（優　良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果を上げることが見込まれる。

B（適　正）：適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C（要改善）：指定管理業務の一部に課題があると認められ改善の余地がある。

評　価　項　目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	－	－
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

６．指定管理者総合評価　㊟自己評価をＡとした項目の内容及びＣとした項目の改善策を記載すること。

牧野については造成から年数が相当経過し、牧柵や牧草の状況が良くないため、利用されていない。牛舎については農業法人が利用しやすいように利用者と協議し対応した。

家畜管理施設については、いのしし飼育事業を廃止したため使用されていないことから施設の維持管理に努めた。

７．市の所管課総合評価　㊟市の評価をＣとした項目についての指導内容も記載すること。

畜舎については、今後も利用者が事故なく活用できるように、適切な維持管理に努めていただきたい。また、家畜管理施設についても適切な維持管理を継続していただき、今後の活用について検討を進めていきたい。

牧野については、患畜の避難牧野として活用する可能性があるため、いつでも使用できるように、今後も老朽化した牧柵の修繕や草刈りなどを継続していただきたい。